

C-81 女子大生の足部形態と既製靴寸法との適合性について  
静岡女大家政 ○古杉直子 河村房代

目的 衣服寸法は、全国的身体計測等により充実し既製服寸法の細分化に役立っている。それに比べ履物寸法は、サイズ(足長)表示のみでその他の寸法が示されていない場合が多い。足部の計測例も2, 3見られるだけで研究の余地がある。そこで今回は女子大生の足部を計測し、既製靴寸法との適合性について検討した。

方法 計測は昭和50年10月から11月にかけて約1か月、13時から16時迄の3時間に静岡女子大生(18歳~22歳)135名を対象とし、人間工学人体計測委員会の規定で行なった。計測項目は、左右の足長、足幅、足囲、指長、踵・中足骨距離、踵幅、足背高と身長との8項目である。

結果 1. 足長22.6~23.0cmの者が最も多く、メーカーの主力生産サイズと一致した。2. 足長の増加に伴ない、各項目とも増加傾向を示す。3. 左右差は踵・中足骨距離、足囲に最も多くあらわれ、次いで指長、足背高の順で、他の項目は50%以上の者がほとんど差が認められなかった。4. 足長との相関は、踵・中足骨距離が最も深く、次いで足囲、足幅、踵幅で、指長、足背高はやや関係がある程度であった。5. 足長に対する足囲、足幅、足背高の割合は足長が増すにつれて減少し、踵・中足骨距離、踵幅、指長の割合はほとんど変化しない。6. 今回の計測値(足囲)は、日本工業規格「かわぐつの標準呼び寸法」の婦人ウイズDに近い値をとることがわかった。なお既製靴にはウイズ表示のないものが多いが、表示されることが望ましい。